



みのる法律事務所便り
令和5年5月第397号



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句

139



押し売り^わと 詫^わびる事務長 よく言った
その通りだと 大きく肯^{うなず}く

令和5(2023)年5月1日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨



みのる法律事務所の事務長は、この事務所便りを読んで下さっている方から、電話で駄弁本『地方弁護士の役割と在り方』の御注文を受け、「ありがとうございます」とお礼を言いながら、「押し売りになってしまいました。本当に申し訳ありませんでした」とお詫びをしていました。

事務長には「そう言ってもらって、ありがたい」と礼を言いました。私の口からそう言いたかったのですが、手が離せず電話に出れなかったのです。代わって言ってもらい、ほっとしました。

この事務所便りを読んで下さっている方より、沢山の御注文を戴き、出版社株式会社エムジェエム出版部は思いもしないほど多くの本が売れ、大喜びです。

ですが筆者の身としては、買ってまで読むような本ではないことは、誰よりもよく知っていますので、ただただ申し訳なくお詫びをしたい気持ちで一杯なのです。

その私の気持ちを、事務長は代言してくれたのです。よく言ってくれたと心の底から感謝の気持ちが湧いて来ました。高校卒業と同時に、みのる法律事務所に入所して丸27年間、事務所を支えてくれている事務長です。よく私の気持ちを分かってくれています。適切に代弁してくれて、改めて感謝、感謝です。

そして何よりも、押し売り^わと知りながら、購入の申し入れをして下さった皆様のお気持ちが嬉しく、ありがたくて、伏してお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

一日も 空白などなし 81歳

どんなに生きても 一日の積み重ね



令和5(2023)年5月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

80歳記念本の発行が終わったら、もうすぐ81歳です。365日×81年＝29,565日生きてきたこととなります。この間一日はいつも24時間であり、23時間になったり、25時間になったりしたことはありません。ずっと24時間を繰り返してきました。

小説やドラマや演劇なら、いきなり何日後とか、何か月後とか、何年後になることがあります。実際の人生は何年生きようとも、いきなり何日か経ってしまうということはありません。劇的な一日はありません。29,565日は、一日24時間の積み重ねの結果です。一日といえども、空白はないのです。

哲学は、人間はどう生きるべきかを問うことですが、詰めて言うと、今日一日をどう生きるべきかを問うことのような気がするのです。もっと詰めると、今の一瞬をどう生きるべきかということのような気がします。

わが身の81年を省みると、その時々によって、一日の過ごし方が大きく違ってきます。若い時と、老人となった今とでは、一日の過ごし方が違います。経験を積んだ今の生き方が一番理想的です。平均寿命に近付き、自分の過去を省みて、これからの一日の過ごし方はどうあるべきかを考えてみたいのです。

これからの高齢者の一日の過ごし方について、『実際に役立つ哲学—今日一日の生き方を考える—』という駄弁本を書いてみます。

買って読んでもらうような本ではありません。この事務所便りをお読み下さる皆様に謹呈させて戴ければ、それだけで幸せです。是非お目を通して下さい。押し売りはもうするつもりはありません。ただ一方的にお送りしますことをお許し下さい。読みたくないときは、そのまま捨てて下さい。いつも勝手なことを押し付けてしまい、心からお詫び申し上げます。

御礼とお詫び



この事務所便りをお読み戴いている皆様から、駄弁本『地方弁護士の役割と在り方』を沢山御注文を戴きました。出版会社株式会社エムジェエムの関係者として、心底より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

株式会社エムジェエムは、妻と次男が運営する会社で、私と兄が監査役となっています。株式会社エムジェエムの関係者として、心底より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

田舎弁護士の駄弁句(139)で詠みましたが、御注文下さった皆様には、心からお詫び申し上げます。

駄弁句の解説で述べましたが、事務長が言う通り「押し売り」となっていました。弁護士の仕事などには全く関係のない皆様に多くの御注文戴き、これまでのお付き合いで、読みたくもない駄弁本を御注文戴いたと痛感しています。ただただ申し訳なく、お詫び申し上げます。本当に申し訳ありませんでした。

実際に役立つ哲学 —今日一日の生き方を考える—

『80歳記念本』は、生き方に関する本3冊と、地方弁護士の役割と在り方に関する本3冊の合計6冊を発売できました。一区切りつきましたので、これから先は何を楽しみにして生きようかと考えてみました。

特別なことは思い付きません。これまで通り、思い付いたことを書いたり、語ったりしながら、この事務所便りを読んで下さっている皆様と仲良くさせて戴くだけだという結論となりました。そして、すぐに『実際に役立つ哲学—今日一日の生き方を考える—』という駄弁本を書き始めました。「はじめに—もう一度、哲学について考えてみたいのです—」の一部を紹介します。



人生の先輩ですが、私の駄弁本のファンとなってくれて、死の直前まで親しくお付き合い下さった岩手県一関市の誠信堂医院の院長の佐藤誠之医師が「哲学の本を書くべきだ」と勧めてくれました。「まだ人生経験が足りません。哲学の本など書けません」と断りました。

「いつまでも あると思うな 親と金 ないと思うな 梗塞と痴呆」という句を詠んで、「いつどうなるか分からないのが生身の身体だ。やれる時にやって欲しい。先生の生き方に対する考え方は素晴らしい。深く共鳴する。その哲学を早く書いて世の中に知らせて欲しい」と強く勧められました。

佐藤院長は、30年以上一日も休むことなくマラソンを続けるなど、新聞でも何度も紹介されるほどの生き方の達人で、凄い人がおられると憧れていました。そんな憧れのドクターにそこまで言われ、そんな力はないと自覚しながらも、哲学に関する本を書き始めました。

哲学の本を最初に発行したのは平成30(2018)年11月3日に発行した『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです。—いなべんの哲学の意義—』でした。

その後今日まで、白い本シリーズとして哲学に関する本を10冊発行してきました。80歳記念本としても『第8巻—年寄りの心得集と進化論—』、『第9巻—長生きを楽しむコツ—』、『第10巻—人生100年時代の年寄りの生き方—』を発行しました。(これらは、この事務所便りをお読み下さっている方には謹呈という格好で、一方的に押し付けました。)

10巻という区切りもつき、もう哲学の本は書き切ったように思っていたのですが、81歳の誕生日が近付いてきたこの頃、もう一度哲学に関して書かなければならないという思いが湧いて来たのです。

「ないと思うな 梗塞と痴呆」と言われ、それはそうだと思い、未熟のまま哲学に関する駄弁本を発行してきましたが、書いているうちにいくらか考えが進化したように思えるのです。これからはもう少し実際の生活に役に立つ哲学の本が書けそうな気がしてきました。

